

死刑の現実を知ることから

執行はどのように行なわれるか

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

一月二四日に「死刑執行に終止符を！ 死刑廃止を願う市民集会」が千代田区公会堂で開催されました。残念ながら、814（ハイシ）席の会場を埋め尽くすには至りませんでした。それでも、元冤罪死刑囚の免田栄さん、赤堀政夫さんらが語られた体験談は、日本の裁判制度や死刑制度にあらためて疑問を抱かせるものとして、一部マスコミでも取り上げられました。

また、韓国、台湾、タイからお招きしたゲストの方たちの間では、来年は台湾で「死刑廃止アジア・フォーラム」を開こう、という話で盛り上がったそうです。

☆☆☆

反響が意外に大きかったのは、この日のために準備された、死刑執行場のありさまを解説したスライドでした。東京拘置所の新しく作られた処刑場を視察した国会議員や、名古屋拘置所での死刑執行に立ち会った元検察官の話をもとに描かれたイラストは参加者に強いインパクトを与えました。

★名古屋拘置所で執行に立ち会った方のお話より★

刑場は12畳くらいの檜の板張りで、窓はなく、能舞台のような感じでした。立会人の前は全面総ガラス張りで、ロープが吊るされている上の部分も、処刑される人が落ちていく下のほうも見えます。そこにはお経が流れていて、刑場の音はまったく聞こえませんでした。

処刑される人は白装束で目隠しをされ、手を後ろにくぐられ、看守に付き添われて入ってきます。刑場のほぼまんなかにある落ちる所に立たせて、職員が上から吊ってあるロープを首に巻きます。所長の説明によると5つのボタンがあるそうですが、その場所は見えません。いっせいにボタンを押すとそのうちのどれかが作用して、まんなかにある部分が開き、落ちて、中吊りになります。

☆☆☆

当日、同会場では死刑囚による作品を集めた「いのちの絵画展」も併設されたのですが、それを観るために訪れた方も多く、視覚に訴えることのできる力を感じさせられたことでした。私たちもいつか、東京拘置所のそばで、「絵画展」や「スライド解説」の場などを企画したいと思います。